

意味か？ 音か？



What's in a name?

稲澤 努
いなざわ つとむ

尚綱学院大学准教授

英国の植民地だった影響で、香港では競馬が盛んにおこなわれている。日本でも最近国際レースの馬券が買えるようになったので、香港競馬の存在を知る方も増えたかと思う。

競走馬は、国際的にアルファベット一八文字以内で命名することが定められており、日本ではアルファベット一八文字以内、かつカタカナ九文字以内で命名登録される。香港でもアルファベット一八文字以内というのは同じだが、それと同時に漢字四文字以内で中国語名を登録する。

香港では、英字新聞であればアルファベットの馬名が、中国語新聞であれば中国語名が使用される。テレビでのレースの実況も、英語のものと中国語（広東語）のものがあり、中国語放送では、中国語名を使って実況する。日本など外国から香港に遠征してきた馬にも中国語名がつけられるし、凱旋門賞やジャパンカップなどの海外レースの馬券を香港で発売するときにも出走馬に中国語名がつけられる。これが結構面白い。

中国語名のつけ方を大きく分けると、意味から漢字をあてたものと、音をもとに漢字をあてたものがある。意味から漢字をあてると、コスモバルクは「大宇宙」になり、アサクサデンエンは「浅草田園」になる。ステイゴールドの「黄金旅程」などはなかなか格好良い。これらは漢字を見ればまあ納得だが、広東語で「浅草田園（チンチョウティンユン）」と連呼されても、

外国人にはまったくピンとはこない。

逆にモリスの「満楽時（マンロックシー）」、「ウォーサンの「威信（ワイサン）」などは、広東語で読んだときに元の音に近い漢字があてられているので、字だけを見てよくわからないが、広東語実況を聞くとこれはモリスのことだな、となんとかわかるのである。

日本人の騎手は「武豊」「福永祐二」と漢字で表記され、広東語で「モウホン」「フックインヤウヤツ」と呼ばれる。欧米人騎手の場合、ホワイトは「韋達（イター）」、モレイラは「莫雷拉（モリョイラー）」といったように、音に基づいて漢字名をつけている。

英語名と中国語名が別々に存在する、というのは中華圏では普通のことである。例えば、わたしは中国語名「稲澤努」で、北京語では「タオズー・ヌウ」、広東語なら「ドウザツ・ノウ」と呼ばれる。英語名を書けと言われたら、*razawa Tsutomu* と書く。

優先するのは、漢字か音か。わたしは「稲澤」を「タオズー」と読まれようがドウザツと読まれようが構わないのだが、なかには「おれはスズキ（鈴木）であって、リンムーなどではない」と首をかしげる方もいる。

アフリカから中国に留学にやってきたサンデー君は、中国語の授業で中国語名をつけられ、日曜日の意味する「星期天」と命名された。彼はそれが大いに不満であった。「おれはサンデーなんだ。星期天（シンチーティエン）じゃない」と。「莫雷拉」のように音の似た漢字名だったら彼も納得できたのかもしれない。